

大月市第7次総合計画審議会 第2回議事要約

日 時 平成29年8月24日（木）午後7時から9時5分まで
場 所 市民会館4階 視聴覚室
出席者 審議会委員17名
大月市：副市長、総務部長、企画財政課長、
企画財政課企画担当3名
欠席者 審議会委員9名

1 開会

第2回大月市第7次総合計画審議会を開催する。

2 議事

(1) 総論について

【内容】

第7次総合計画の総論について説明があった。

【会長】

説明が終わったが、質疑等あるか。

【委員】

質問と意見であるが、この計画が市民の目に触れる時に、第6次総合計画と第7次総合計画の間に空白期間が1年ある。審議会のメンバーについては、第1回審議会の際に説明があったので理解しているが、初めてこの計画を見た市民にも理解できるように、計画の中で触れないのか。

また、4ページの「10年間で良くなった点」に、小中学校の耐震化についての記載があるが、平成29年度、猿橋小・中学校、鳥沢小学校、七保小学校の4校についても空調設備が整備されるため大きな成果であると思うが。

【事務局】

空白期間については、前回説明したとおり、総合戦略等の絡みもあるため、1年先送りとなった。総論の策定の背景と目的の下段で多少触れているが、市民にも理解できるように追記したい。

空調設備については、平成29年度で完了するが、「良くなった点」の部分については、28年度に開催された市民会議・職員ワーキングの中で委員から出された意見を取りまとめて記載している。

実際に良くなったところではあるが、ここで記載するのは不適當であると

考える。

【会長】

委員からの意見は、良いことがあったのに、それが空白の1年間に入ってしまったため、PRするべきではないかということではないか。

我々は理解できるが、パブリックコメントをかけた時、市民としてどう捉えるか。可能ならば加えた方がよいと思う。

【委員】

28年度の延長であるため、良いことは加えるべきではないか。

学校に関しては、市民にはわからない部分があるため、意見として大事ではないか。

【事務局】

記載した方が良いのであれば、市民会議以外からの意見という表現で追加したいがよろしいか。

【出席委員】

異議なし。

【事務局】

追加したい。

【会長】

他にあるか。

【事務局】

良いことなので記載するべきということは承知しており、記載する方向で検討するが、この部分は、あくまで市民会議や職員ワーキングにおいて議論された生の声ということが重要であるため、それとは別の表記を検討したい。

(2) 基本構想について

【内容】

第7次総合計画の総論について説明があった。

【会長】

説明が終わったが、質疑等あるか。

【委員】

11ページの「信頼と協働のまちづくり」についてであるが、大月市は「信頼と協働のまちづくり」を基本理念としており、「協働」を共に共有するとの記載があるが、市民と行政が深く信頼し合うためには、「情報」の共有が重要である。

提案であるが、市民と行政が信頼関係を築いていくためには、わかりやす

く透明性の高い行政経営を進めていく中で、市民への情報提供及び情報の共有を計画の中に取り入れることで、より強い信頼と協働のまちづくりと住民参加が期待できるかどうか。

【事務局】

委員からの提案については、施策の大綱の部分に入ってくると考える。

基本構想については、将来像や10年間の取組等の、まちづくりの意思、方向性を示すものであるため、個別の取組については基本計画に記載する。

そのような状況の中、20ページの「協働のまちづくり」の箇所において、信頼と協働のまちづくりの推進を記載している。

情報の共有については、基本計画において審議したい。

【委員】

ここに記載されている内容は素晴らしいが、一体誰が行うのか。一番重要なのは職員の資質の向上である。どれもタイトルは立派であるが、その先が見えてこない。

私は文化協会の会長であるため、市役所で文化協会の関係で質問するが、キャッチボールが成り立たない。

このような計画を作るのであれば、どうすればよいのかしっかりと検討されたい。そうしないと前に進まない。

【石井副市長】

基本構想については、ここまでの表現として、基本計画、実施計画にて、先ほどの藤井委員、小林委員からの貴重な意見を反映して具体的に示していく。

【会長】

21ページの施策体系の各項目については、基本計画、実施計画の中で、実現するにはどうするのか、誰が担当して、いつまでということが具体的に示されるといことか。

そして、PDCAサイクルが繰り返されるという理解でよろしいか。

【事務局】

そうである。

3ページに記載されているが、本計画は、基本構想、基本計画、実施計画により構成されるので、詳しくは基本計画、実施計画にて記載し、PDCAサイクルを回していく。

【委員】

11ページの3つの案はどのようにして決まったのか。

【事務局】

市民会議、職員ワーキングから各グループ1つの計6つの案が出された。

その後、庁内策定委員会において3つに絞られた。

【委員】

この3つの案は、主語が市になるのか。例えば、案1の「ひとと自然を活かし、希望のもてる未来を共に実現していくまち 大月」であるが、これは市と市民が主語か。それとも市が主語か。

【事務局】

「共に」とあるため、市と市民である。

【委員】

市民だけでは実現できないため、市と市民ということか。

【事務局】

そうである。

【会長】

ここに示されている3つの案であるが、最終的には1つに絞りたい。

【委員】

案2の「地育力」という言葉にはとても良い意味があるのだが、誰か説明できる者はいるか。

【事務局】

答えになるかわからないが、各グループの中で検討した結果がここに出てきたわけである。

地域づくり検討フローの市民グループ6の3ページにある地域づくりの方向性（キーワード）の中に「地育力」というキーワードが出ており、その言葉が活かされた。

どういう意味かという話はこのグループでないと説明するのは難しい。

【委員】

気になって調べたが、長野県飯田市の教育向上連携システム推進計画の中で使われており、「地育力」という言葉の中には、社会教育、生涯学習、キャリア教育、ふるさと学習教育、体験活動教育、家庭教育が含まれている。

飯田市では研究機関ネットワークというシステムが構築されており、大月市が目指す「ふるさと教育」に適しているのではないか。

【委員】

「地育力」は一般的な言葉ではないため、上段の部分で説明がないとわからない。

大月市の目指すところはどこなのか。「地育力」だけなのか。むしろ、「地育力」などは抽象的であるため説明する文言を追加しないといけない。

私は案1の方がわかりやすいと思う。

大月市が目指すのは希望がもてる未来である。地域特性、地域資源を活か

すとあるが、大月市の地域特性、地域資源は人と自然である。その地域特性、地域資源を活かして、希望の持てる未来を実現していきたい。

案3の「安住都市」も抽象的でわかりにくい。説明を加えないと理解できない。

【会長】

他にあるか。無ければここで、1つに絞りたいが。

【委員】

3つの案をどうやって理解していいのか躊躇している。

【会長】

誰が見ても、説明しなくてもよい案が選ばれるのがよいと思う。

難しいと思うが、自分なりに考えて挙手していただきたいがよろしいか。

【委員】

各委員が地域づくり検討フローにどれだけ目を通していいのか心配である。少しこの場で時間を取って、再度考える時間をいただきたい。

私は、特に地域づくりの方向性（キーワード）に、それぞれどのようなキーワードがあるか見て判断しようと思う。

【会長】

案1がグループ3、案2がグループ6、案3がグループ2から出てきている。

少し時間を取るなので、3つのグループの検討過程を再度確認したうえで判断されたい。

【会長】

それでは、挙手にて多数決を取りたいが。

【委員】

多数決で決める前に、案2の「地育力」であるが、行政の幹部が明確な説明ができないものをどうして入れてきたのか。これはどのようなグループか。

案2を出した6グループは市民目線で検討していない。

【事務局】

市民グループか職員ワーキンググループかの公表はしていない。

【委員】

このような言葉は市民から理解が得られないと考える。

【委員】

3つのスローガンを見て、「地育力」「安住都市」は抽象的で解りにくい。

大月市が将来目指しているのは財政的な事も考えてコンパクトシティである。そう考えると、案1が良いのではないか。

【委員】

今の意見を聞いて思ったが、案1の「共に」ということは、市民と行政が一緒にと意味の「共に」でよいのか。再度確認したい。

【事務局】

先程はそのように答えたが、「みんなで」という解釈もできる。

みんなの中には市と市民も入っているため、間違っていない。

【委員】

「みんなで」ということであるが、市だけではなく、市と市民の両者が含まれているという理解でよろしいか。

そこを明確にして判断したいため、質問させていただいた。

それと同時に11ページの基本構想の中段に第7次総合計画では、「本市ならではの地域特性や特徴的な地域資源を生かし」との文言があるため、ここがキーポイントになってくるのではないか。

【委員】

議事の中にある総論、基本構想はその通りだと思う。

大月市で一番大切なのは自然を生かすことであり、将来的には希望の持てるまちを目指すため、案1が総論、基本構想に合っているのではないか。

【会長】

案1についての意見が多いが、案2、案3について意見のある方はいるか。

【委員】

挙手にて多数決を取るということであるが、手を挙げづらいため、メモ用紙のようなもので投票したい。

【委員】

案1についてであるが、資料7に書いてあるのが「みんなで」になっており、素案の11ページには「共に」とある。どちらが正しいのか。

【会長】

事務局どうか。

【事務局】

基本的には、市民グループ、職員ワーキンググループから出されたものが正しい。

また、そちらでは、「ひと」も漢字になっているので訂正したい。

転記する際に誤りがあった。申し訳ない。

【委員】

そもそもグループ3の地域づくり検討フローが間違っているということはないか。ワーキングで出されたものとは一致しているのか。

【事務局】

事務局のミスで混乱させてしまい申し訳ない。

基本的には地域づくり検討フローの提言が出てきたという事で理解されたい。

ただ、前回の会議でこちらの案も示してしまったため、例えば案1が採用された場合は、素案と資料のどちらがよいか決めていただきたい。

【委員】

きちんと検討したものが、記載されないといけない。

例えば、「ひと」という言葉は漢字と平仮名でそれぞれ与える印象が違う。

私は、平仮名で表記されているためよいと思った。人間という意味の人ではなく、もっと温かいイメージがしたのだが。

自然を「生かす」も「活かす」になっており、それには意図があつてのことだと思って判断した。

どちらがよいという事ではなく、こうした方がよいと事務局の方で決めていただきたい。

【委員】

ここで決定したものを今後議会で議決するのか。

【事務局】

総論、基本構想は議決事項である。

【事務局】

混乱させてしまい申し訳ない。

どこでどうなったのか、今は時間が無いため説明できないが、みなさんは総合計画の審議会のメンバーであり、私どもの方とすれば、この審議会に出す資料を市役所の庁内検討委員会の中の約30名で吟味した資料を提出した。

6つのグループから出された意見が一字一句反映されていなくて申し訳ない。

ただ、みなさんは審議会のメンバーであり、審議会ですれか一つに決めていただくことが目的である。漢字表記か平仮名表記かの調整はこの場でもできる。

基本線はこの3つの案のどれかで、あとは委員がおっしゃったように温かみを持たせるために平仮名表記にするかなどはこの場で決めていただきたい。

【委員】

委員が言ったように、言葉で言うのと、文字で見るとでは与える印象が違う。「ひと」は平仮名表記の方が温かみがある。

先程出た「地育力」という言葉については、私は、地域の環境や地域のみ

なさんと交流して学んでいくことが「地育力」だと思っていた。今の言葉は
どんどん作られていく。

【会長】

事務局からは、漢字、平仮名の表記はこの場で変更しても構わないとのこ
とであったため、まずは、案を一つに絞りたい。

投票用紙を用意したので記載されたい。

【会長】

投票の結果、案1が15票、案2が2票となったため、案1で決定したい。

そこで、「ひと」、「活かし」の表記、「みんなで実現するまち」なのか「共
に実現していくまち」なのか検討したい。

【委員】

実現するというと絶対やらなければならないという固いイメージを抱いて
しまうため、「実現していくまち」の方が一步一步着実に取り組めるような
気がする。

【会長】

ご意見伺いたい。

【委員】

委員のおっしゃったように「実現する」よりも「実現していく」の方がよ
い。

平仮名と漢字のイメージは平仮名の方が柔らかい。

そのため、「ひと」も平仮名のほうがよい。「共に」よりも「みんなで」の
ほうが柔らかい印象がある。「活かし」はどちらでもよいが、全て平仮名で
もよければそれでよい。「まち」が平仮名のため、平仮名で良いと思う。

【委員】

委員に聞きたいが、「実現していく」か「実現してゆく」か。

【委員】

どちらも間違いではないが、「ゆく」の方が古い表現になる。一般的には
「いく」である。

【会長】

他にあるか。無ければ、案1【ひとと自然をいかし、希望のもてる未来を
みんなで実現していくまち大月】（市民グループ1案を一部修正したもの）
に決定したいがよろしいか。

【出席者】

異議なし。

【会長】

案1に決定された。

【委員】

決定されたうえで、一点よろしいか。

11ページの説明文でテーマについて触れる必要があるが、下から5行目に「市民が郷土に対し誇りを持てるまちづくり」とあるが、「希望をもてる未来」という言葉が無いため、例えば「協働に対し誇りを持って、未来に希望を持てる街づくり」などの文言を加えれば、テーマとの整合性が図れると思うがいかがか。

【事務局】

テーマとリンクするように整合性を図らなければならないが、どこにいれるかは再度検討したい。

(3) その他

【内容】

情報の共有について

【委員】

基本構想が決まってしまったが、私は10年間このテーマで行う事を頭に入れて考えてきた。計画が終わる2027年に、果して希望を持てる未来なのか。現代の情報化社会の中でさまざまなものの変化が激しいため、テーマに沿った施策をスピーディーに行わなければならない。

先程、委員からも情報の共有が大切という話があったが、私も考えることがあった。

情報の共有にはいろいろな種類の情報があるが、こういう時代は常に情報が動いているため、この会議を行うに当たっては、今ではなく、計画が終わる2027年度がどのような社会になるかを考えて検討したい。

【石井副市長】

全体を再度見直し、文言を変更する中で、修正したものを委員へ報告するので、了承されたい。

【事務局】

訂正した部分をわかるようにして近日中に委員のみなさんに郵送で送付したい。

総論・基本構想についてご了解いただいたとなると、1回目の審議会で市長がこちらに諮問した形になっているため、最終的に全体的な答申を行うが、基本構想については、議会の議決が必要なため、この部分だけ先に答申するという手続きを取りたい。

そのことについては、先ほどの訂正箇所をみなさんに送付し、意見が無ければ了承されたという事で答申の手続きを行いたい。

基本計画等を含めた最終的な答申については、11月頃に審議会を開催し、意見を伺い新たな答申を行う。

また、今後パブリックコメントを実施するが、その意見については付帯資料として添付して、議会に提出するという手順を考えている。

3 閉会

第2回大月市第7次総合計画審議会を閉会する。